

～勝手にコラム～

教員不足 107人！

青森県教職員組合
文責：阿部 聡
【書記次長】

先日の朝日新聞で「東京都の義務制の教員不足が100人以上」と報道された際、同じように教員不足の多い県として青森県（73人）の名前が挙げられました。

青森県教組で、改めて県教委に確認したところ、

小学校 55校で 73人、中学校 28校で 34人

合計で107名が未配置という驚愕の実態がわかりました。

（1学期始業式時点）



昨年6月付けの教育新聞では「小学校61名、中学校6名」と報告しましたが、改善どころか、悪化の一途をたどっています。

また、地域差も大きく、特に困難な状況にあるのが弘前市と八戸市です。

弘前市（小学校19校33人、中学校3校3人）

八戸市（小学校14校14人、中学校12校18人）

これに対して青森市はゼロ！「教育の平等性」も大きく損なわれています。

県教組では県教委に対して「指導主事の派遣を！」と繰り返し要求していますが、首を縦に振ってくれません。現場が困っている時こそ指導主事の出番なのではないでしょうか？

5月31日 県教委と春闘交渉をします！

50分という短い時間ですが、以下の内容で交渉を予定しています。

- ①今般の物価高に対し、全ての教職員に緊急の賃上げ・臨時一時金の支給・手当の加算を
- ②在校時間の削減と年休目標16日達成のための方策を
（スリム化・削減できる業務、通知表の所見欄廃止など）
- ③教員の未充足の解消を
（指導主事の派遣）
- ④講師を「教諭」の職種とすること。
当面、臨時免許に関わる費用を自己負担にしないこと。



- ⑤人事評価制にもとづく給与反映の結果を知らせること
- ⑥人事評価に対する異論の申し出の期間を延長すること（現行10日→1ヶ月）
- ⑦部活動の県指針をスポーツ庁の指針の基準に則したものにすること。
（ハイシーズンの撤廃。長期休業中のオフシーズンの実施。大会参加の上限基準の設定）

（教職員のみなさんへ）

教職員なら誰でも参加できます。現場の声を直接届ける機会です。

平日で難しいかも…ですが、たくさんの方の参加をお待ちしております。



集合時間 県庁北棟1Fロビー 14:00

打ち合わせ 14:00~14:45

交渉 15:00~15:50

あなたも県教組へ加入しよう！

全国的に教員不足が問題になっています。「ブラックな職業」というだけでなく「教師という仕事の魅力」が失われてきているからではないでしょうか？

教職員組合だけではなく、一般の労働組合でも組織率が減ってきており、「現場からの声」も埋もれがちです。教職の現場が困難な状況になっているのは、文科省や教育委員会の施策もありますが、それにしっかりと対抗しきれなかった組合にも責任があるかと思います。



しかし、現状組合員は少数。職場で1人、あるいは誰もいないところが多数あります。そんな中で組合員になるのは、覚悟と勇気が必要でしょう。

でも、こんな状況だからこそ、仲間と声を出し合い、知恵を出し合い、教師の仕事の魅力を取り戻していくことが求められています。

「小さな力でも、みんなで力を合わせれば何とかなる。」と子ども達に伝えているように、協力・共同の大切さを知っているあなただからこそ、組合に加入してほしいのです。



組合は、あなたの力を必要としています。

*この記事は県教組のホームページにも掲載されています